

# 泉の森 なんでも情報館

2013年 春号(No. 9)

発行 しらかしのいえボランティア協議会  
エリアマップ作成班

## クローズアップエリア その9 しらかしのいえ周辺

2011年1月の創刊以来、第8号まで、皆様の温かい応援のおかげで、泉の森全エリアをご紹介することが出来ました。これからは、各エリアに季節を変えてスポットをあててゆきます。今後も、よろしくお願い致します！今号では「しらかしのいえ」周辺を取り上げ、春から初夏にかけて見られる樹の花を始め、いろいろな見どころをお知らせします。



サクラ 泉の森にはいろいろなサクラがあります。今年も綺麗でしたね。 p. 2



メジロはサクラの蜜が大好き p. 2

1階の展示コーナー・シマちゃんに会いに行こう！ p. 3

センダン P. 3



### 水車小屋と田んぼ

田んぼがあるなんて知らなかった人も多いのではないのでしょうか？ 水車を使って精米もしています。 p. 4

### 新コーナー、登場！

泉の森のいろいろな生き物たちを、まんがで紹介します。第1回はアズマヒキガエルとキブシ。 P. 5~6

カスミザクラ P. 2

ミズキ、クマノミズキ P. 3

キブシ P. 5

アズマヒキガエル P. 6

## 人生いろいろ・サクラもいろいろ 泉の森に咲く あんなサクラ こんなサクラ

### 泉の森のカスミザクラ

泉の森の緑のかけ橋のたもとに1本のカスミザクラがあるのをご存知でしょうか。カスミザクラは山地や北国に多く、泉の森では4月の下旬頃（\*）開花します。遠くから見ると霞のようだと言われてこの名がついたようで、少し地味な印象の白い桜です。でも、カスミザクラは数百種類もある桜の中でもヤマザクラやエドヒガン、オオシマザクラなど10種ほどしかない基本になる自生種のひとつなのです。

（\*）2012年の開花時期

### ソメイヨシノは幕末生まれ

今では桜というとソメイヨシノの感がありますが、ソメイヨシノは幕末に江戸の染井村の植木屋が育てて世に出した園芸品種でエドヒガンとオオシマザクラの交配種です。花の見栄えが良く、成長が速い、挿し木で容易に増やせるという長所があり、明治以降、文明開化の風潮とともに全国に広まり、特に戦後は各地でほとんどこの桜が植えられてきました。しかし、まだ150年ほどの歴史しかない桜です。

### 日本古来の桜は？

日本古来の桜の代表格はヤマザクラで、ほかにエドヒガンやカスミザクラ、オオシマザクラなどがあります。また、それらの変異種である八重や枝垂れの桜も昔からあります。有名な吉野の桜や京都御所の左近の桜はヤマザクラです。各地に残る樹齢数百年という長寿の桜はほとんどがエドヒガンです。また、平安時代の女流歌人、伊勢大輔が「古の奈良の都の八重桜 今日九重に匂いぬるかな」とうたったナラヤエザクラはカスミザクラの変異種ですし、小学校唱歌の「さくらさくら」に「かすみか雲か」とうたわれたのはヤマザクラかあるいはカスミザクラでしょう。



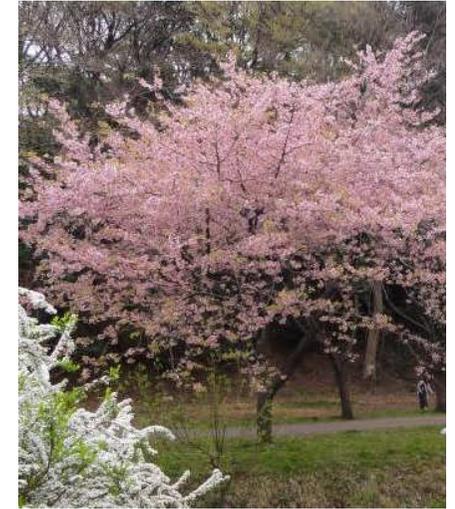
カスミザクラ

このように昔から日本人に親しまれてきた桜は数多く、ソメイヨシノばかりが目立つ現代と比べるとはるかに多様性に富んでいます。それぞれの桜は花期も少しずつ違うので、人々は早春から晩春まで続く桜の季節をいろいろな桜を味わいながら楽しんできました。

### 泉の森に桜を訪ねて

泉の森にはソメイヨシノだけでなく、カスミザクラやヤマザクラ、オオシマザクラ、オオカンザクラ、コヒガンザクラ、カワヅザクラ、それに花が桜らしくない桜のウワミズザクラ、イヌザクラなど多くの種類の桜があります。桜の季節、昔から日本人に愛されてきた色々な桜を訪ねて森の中を散策するのもまた楽しいのではないのでしょうか。

参考文献「日本の桜、歴史の桜」小川和佑著  
（橋本幸夫）



引地川沿いのオオカンザクラ

### サクラに集まる小鳥たち

サクラの花を心待ちにしているのは、人間だけではないようです。メジロやヒヨドリは花の蜜が大好き。開花したサクラに集まってきて、花のまん中にくちばしを差し入れている姿をよく見かけます。くちばしをストロー代わりにして蜜を吸っているように見えますが、実は吸っているのではなく、なめているのです。メジロの舌の表面は、粘度のある蜜を効率よくめられるようにブラシ状になっているそうです。ちなみに鳥は、液体などを“吸う”ということができません。

ヒヨドリは、蜜だけでなくサクラの花全体を食べることもあります。またスズメもサクラの蜜を求めてやって来ますが、メジロやヒヨドリのように上手に蜜をなめることが出来ません。そこでスズメは、花の外側から蜜のある部分を食べるので花は落ちてしまいます。サクラはちょっと困っているかもしれませんね。（小林みどり）

## 晩春の森にたなびく花の雲～ミズキ、クマノミズキ

**ミズキ** ミズキ科ミズキ属 別名:クマノミズキ 〈水木〉 落葉高木

緑のかけ橋をしらかしのいえ側から渡ると、渡り切った斜面にある木がミズキです。5月から6月にかけて、扇状に広げた枝に、横に棚状に小さな白い花をたくさん付けます。遠くから見ると、階段状に花が咲いています。木肌も葉っぱも毛がなくて炭にしたりするのに良いようです。10月から11月に6～7ミリの丸い黒い実をつけます。葉のつき方を見ると互生になっています。この木は枯れると焚き火に良いが、生木は全然燃えないと聞きました。春先にこの木を切ると、樹液が水のように出ることから和名が付いたと言われています。

用途は庭木・薪炭・食器・下駄・こけし・杖・印鑑などに使われます

**クマノミズキ** ミズキ科ミズキ属 〈熊野水木〉 落葉高木

ミズキによく似ていますが、花の咲く時期が1か月ほど遅れ6月から7月にかけて咲きます。近くで葉のつき方を見ると対生していますのですぐ判ると思います。果実はミズキより少し小さく、5ミリほどの丸い黒

い実です。山仕事をする人に聞いた話では、この木の材は堅く、ここに腰掛けたりすると「お尻が後でかゆくなる」のだそうです。(藤井和子)



①棚状に咲く花  
(Photo from 財団  
HP “やまとナビ”  
季節の花情報)  
②ミズキの実  
(未熟なので緑色)

## 車を停めたら、ちょっと観察 ～センダン



センダンの花

しらかしのいえの裏の駐車場に入って左奥に、センダンの木があります。5月から6月頃に薄紫色の小さな花をたくさん咲かせます。派手な花ではありませんが、よく見るとなかなか魅力的。じめじめとした梅雨の季節に、さわやかさを感じさせてくれます。冬、葉が落ちた後は黄色い丸い実が目立ちます。この実はヒヨドリやツグミなどの大切な食料になっています。

「梅檀は双葉より芳し」の「梅檀」はこの木ではなく、ビャクダン(白檀)のことです。ビャクダンは熱帯に産する樹木で、日本には自生していません。

(小林みどり)

## え～っと、今年の干支は何だったかな？

昨年末にはどんな年賀状にするか、あんなに悩んだのに…春ともなると、今年の干支が何だったか、年男・年女でもなければ忘れてしまいがちですね。今年、2013年は巳年、知る人ぞ知るしらかしのいえのアイドル(?)・シマちゃんの年です。

シマヘビのシマちゃんは、しらかしのいえ1階の展示コーナーにあるケースに住んでいます。2011年夏に保護されてから、脱皮を繰り返し少しずつ大きくなっています。これまでの抜けがらも展示してあるので、その成長ぶりを見てください。

シマちゃんはとても臆病。たいていはケースの中の木箱に潜りこんでいます。ひと目見ようとケースを叩く人がいますが、怖がってますます出てこなくなります。シマちゃんに限らず、ヘビは私たち人間が怖いのです。野外でヘビに出会った時は、けしていじめたり追いかけたりしないで、そっと見過ごしてくださいね。

—私たちもヘビも、泉の森を利用する仲間、同じ星に生きる仲間—  
巳年の今年、ヘビが苦手な方も、このことについて考えてみてください。

(小林みどり)

## 泉の森のお墓と七苗七堰

### 泉の森のお墓

しらかしのいえの裏手にお墓があります。こんなところになぜお墓があるのだろうと思いますが、これは以前この辺りに住んでいた中村家のお墓です。昔は、ご先祖様が子孫の繁栄をいつも見守っていてくれるようにと家の近くにお墓を建てたのです。泉の森の中を探してみると方々にお墓があります。国道 246 号線下の売店の近くには二見家のお墓。緑のかけ橋を渡った所にある東州翁の碑も山口家のお墓の中にあります。いずれもこの地に長く住んできた農家のお墓です。

### 七苗七堰

泉の森は昔の上草柳村になりますが、村には昔からの旧家として俗に七苗七堰(ななみょうななせき)と言われる七つの家があります。引地川の上流から順に中村、二見、高橋、井上、山口、古谷田、下田の七家です。七堰というのは引地川から生活用水を引くためにそれぞれの家が堰を川に設けていたからだといわれています。この七苗からは山口東州翁や井上孝俊元大和市長が出ています。

### 上草柳村

新編相模国風土記稿によると上草柳村の始まりは江戸時代の初期で、深見村から分村して草柳村になり、その後、再分村して上草柳村と下草柳村になりました。今から四百年ほど前のことです。七苗の家々の中には「武田の落武者が我々の祖先だ」という伝説があるそうです。一方、武田信玄・勝頼に仕えた坂本貞次が武田家滅亡後、家康の旗本として深見村(当時は草柳村分村の前)の領主になった事実があります。下草柳村の領主となった駒井氏も旧武田家家臣です。さらに村のお寺の善徳寺の開基は甲斐国から来た正恵坊善徳です。このように、この地は甲斐国や武田家とは縁

があるようで、伝説とは言いながら武田家ゆかりの者がこの地に来て土着した可能性がないとは言えません。七苗の家々の先祖をたどれば、その中には風林火山の旗の下、戦場を疾駆した「つわもの」がいたかもしれませんね。(橋本幸夫)

参考資料: 大和市長、

「今と昔上草柳歴史講座」草友会

右の写真: しらかしのいえ近くにあるお墓



## 水車小屋と田んぼ

水車が廻って のどかな田園風景を醸し出し、横に小川が流れていて子供達の格好の遊び場。水車小屋は泉の森のシンボルのひとつですね。この水車小屋、単なるお飾りでしょうか? いやいや、役に立っているのです。その秘密は隣にある田んぼ。ここで稲作りをしていて、秋になり刈り取った稲を、この水車小屋で精米しているのです。それでは、水車小屋の中の様子や、稲作りがどのように行われているかを紹介しましょう。

### 1. 水車小屋の中はどうなってるの?

しらかしのいえ事務所をお願いして、小屋の中を見せてもらいました。太い車軸が横たわっており、外の車輪が廻ると、この車軸が廻ります。車軸に2箇所、十字に棒がついていて、杵を上を持ち上げストンと石臼に落ちる仕組みになっています。水車が回ると、二つの石臼に交互に杵が落ち、トントン、トントン…昔あちこちにあった水車小屋で、こんな音がしてたのでしょね。

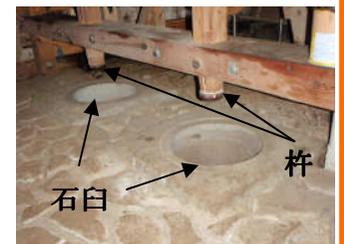
### 2. 田んぼ

水車小屋の隣の田んぼ。昔、泥田だった泉の森の面影を残しています。この田んぼは5年ほど前に、水車小屋の有効利用の目的で作られ、以来毎年、稲作りが行われています。稲作りのリーダーは、民家園ボランティアの鈴木栄さん(大和市草柳在住)と小柳勝博さん(大和中央在住)。稲の苗は、鈴木さんが、遠く長野県佐久市の田んぼから持ってきて、ここに植えています。

稲作りの年間日程は以下の通りです。まず、春先に田起こしをして土の中に酸素を供給し、5月に代掻き(雑草を除き土をかき混ぜて平らにする作業)の後、田植えをします。雑草を取ったり、育った稲の倒れ防止をしながら、10月初め頃、稲刈りです。刈り取った稲を民家園で天日干し後、11月初めの民家園秋祭りで昔の農機具を使っての脱穀。そして11月末に水車小屋で精米を行うのです。

今年も例年通り、稲作りが行われる予定です。結構な重労働が多いですので、作業しているところを見かけたら、声をかけて励まして下さい。水車小屋で精米が行われる頃、掲示が出ます。水車小屋の中を見ることができますので、是非、見学に来て下さい。

(伊藤健一)



水車小屋の内部



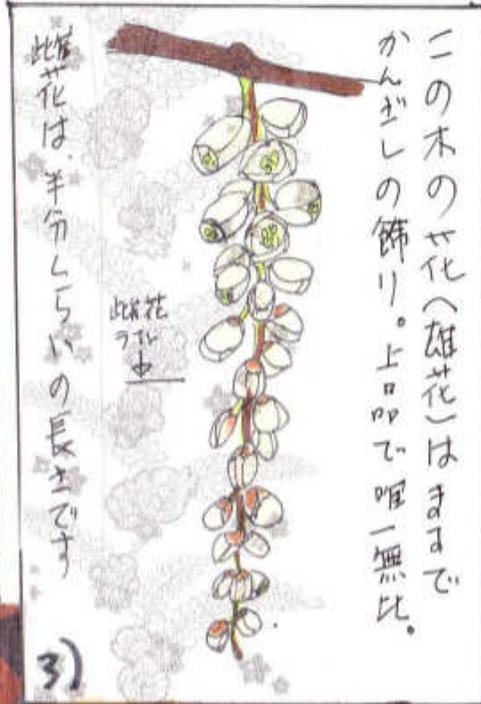
田植え風景

# なんでモ休み時間① キブシのお花し(話)

(中小田美希)



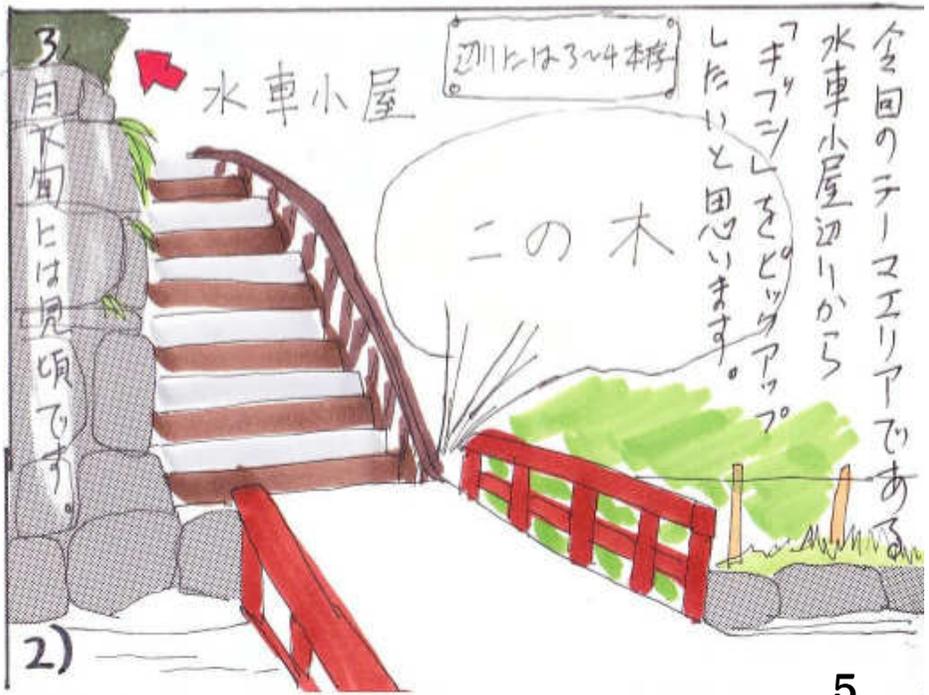
河津やじがしなど、早咲きの梅と



この木のヤ化(雄花)はまるで  
かんざしの飾り。上品で唯一無比。



はじめまして!!  
13年度からなんでも情報館に  
新しいページができました!



今回のテーマエリアである  
水車小屋辺りから  
「キブシ」をビッグアップ  
したいと思っています。

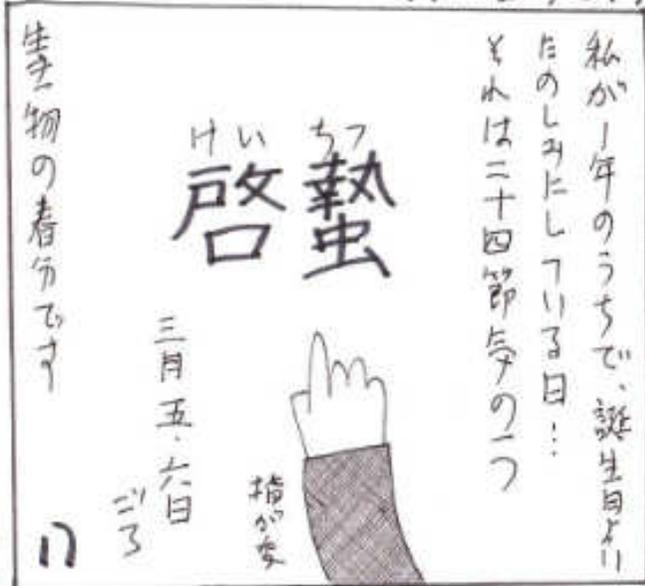
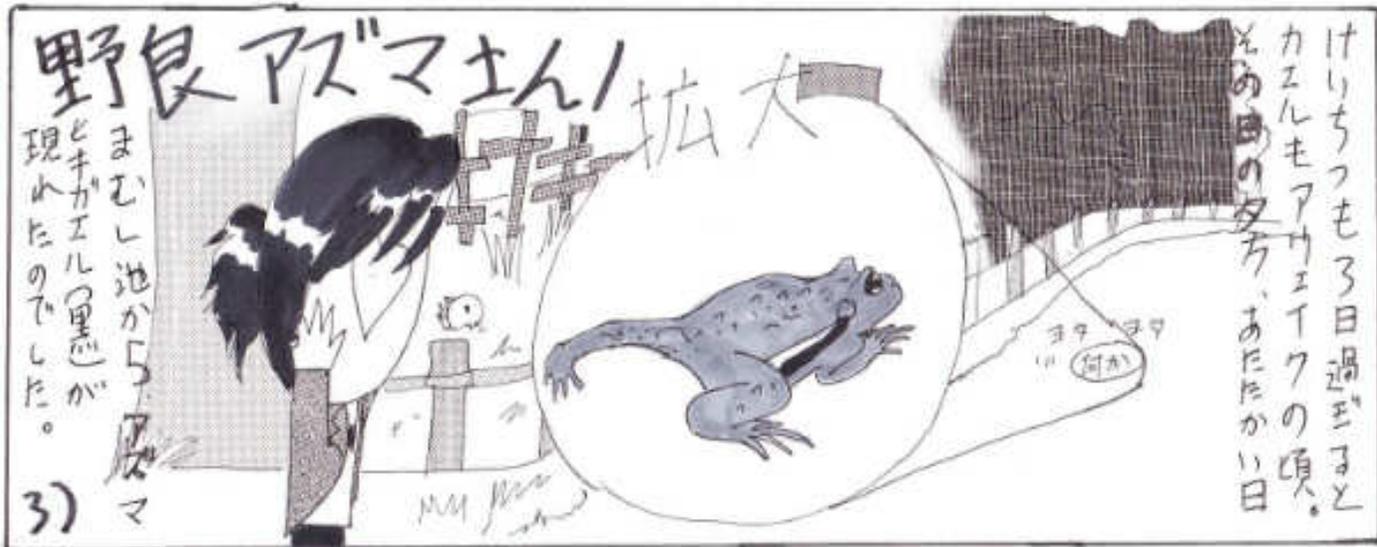


よろしく  
お願  
い

新「なんでも情報館」を

# なんでも休み時間② 春到来!

(中小田 美希)



完